

三菱電機 デジタルイノベーション

AI・セキュリティ・データを成長軸に 統合2年目で戦略加速

武田 聡
代表取締役
取締役社長



ITの市場環境は、生成AI(人工知能)の登場で激変した。短期間で技術革新が進み、これまでとは全く違うステージに入った。AIの性能が飛躍的に向上する一方、セキュリティ面の課題も出てきている。企業のAI活用ニーズは強く、活用が前提になる。こうした中、コストを管理しながら、適切かつ安全にAIを使える基盤が求められる。

当社は、三菱電機グループのDX・IT・セキュリティの企画・推進部門を分社化し、情報システム・サービス事業を担う子会社と統合して2025年4月1日に発足した。技術、人財、ノウハウを結集し、三菱電機のデジタル基盤「Serendie(セレンディ)」を活用し、あらゆるデータをこれまでにない価値へ変える「循環型デジタル・エンジニアリング企業」を目指している。

IT事業統合から1年が経過し、文化や制度の融合を経て、新会社としての姿と方向性が明確になった。今後はセキュリティ、AI、

データを重点領域とし、成長戦略を加速させる。

セキュリティは、生成AIの登場以来ますます重要になっている。中でも製造現場のOT(制御技術)セキュリティは、新たな成長分野として注目される。ITと異なり、システムを止めることができない難しさがある。当社の強みを発揮できる分野だ。昨年度、OTセキュリティに強い米国のNozomi Networksを完全子会社化した。これからの分野として総力を挙げて取り組む。

AIでは、自律型AIエージェントが本格化する中、企業が安全・低コストでAIを使えるマルチLLM対応基盤を提供し、AI実装を支援する。また、全社員約5400人(2026年4月現在)のうち4000人以上をAI人材として強化する。ベンダーやパートナーとの連携を深め、人財育成を加速し、最新技術を習得してお客さまを支援する。

ソリューションでは、以前から強い金融に加え、製造やデータセンター関連、中堅・中小企業向けのSaaS型ビジネス支援などに力を入れる。

新たなブランドメッセージ「デジタルで導け。三菱電機を、そして世界を。」も策定した。今後は「デジタルで貢献する企業」として、対外的な発信を積極的に増やしていく。